TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

# これが神のやり方-神さまが計画された救いの方法

## 戦いの中にいる ローマの信徒への手紙 7 章 14 節-25 節

2026 年 10 月 31 日 & 11 月 1 日
余沢 武 牧師

I. イントロダクション

こんにちは。みなさんのお祈りに感謝いたします。先週の日曜日午前 7 時頃、父が危篤状態にあるという電話を受けました。午前 10 時頃、高崎の病院に到着しました。正午頃、家族に見守られる中、父は主の御もとへ旅立ちました。みなさんのお祈りに感謝いたします。

ローマの信徒への手紙では、私たちはみな罪を犯したけれど、イエスへの信仰を通して赦され、義と認められていることを学びました。私たちはもはや律法の下にはなく、恵みの下にあります。

パウロはこう尋ねました……

「恵みがさらに豊かになるために、もっと罪を犯すべきでしょうか？」 彼は「いいえ」と答えました。 私たちはイエスとともに罪に対して死んだのです。

恵みの下にあるからといって、罪を犯してもよいのでしょうか？ 再び「いいえ」と答えました。私たちは今や「義の奴隷」なのです。

実際、律法は罪なのでしょうか？ 彼は「いいえ」と答えました。神の律法は聖く、義であり、善です。しかし、罪はそれを機会、あるいは踏み台として利用し、私たちの不信仰を露呈させ、さらなる罪を生み出そうとします。そうすることで、罪が罪としてはっきりと認識されるようになります。今日は、これがどのように起こるのかを見ていきましょう。まず、祈りましょう。

II. 戦いの中にいる

(1)律法 vs 私

**ローマ 7 章 14 節-15 節**です。「**[14] 私たちは、律法が霊的なものであると知っています。しかし、私は肉の人であって、罪の下に売られています。[15] 私は、自分のしていることが分かりません。自分が望むことを行わず、かえって憎んでいることをしているからです。**」

彼は神の「律法」は「霊的な」ものであると言っています。それは、神の御性質と御心を示すために、神の御霊からきています。

「私は(今は現在形)肉の人であって」―彼は神の御性質や御心によって動かされているのではなく、世俗的な性質や欲望によって動かされています。そして「罪の奴隷として売られています。」――彼は罪に支配されていることを意味します。

先週の日曜日、父が危篤状態にあると知って、父が亡くなる前に会いたいと願い、私たちは電車に飛び乗りました。病院に着くと、入り口には体温を測るための体温計がありました。それはお腹の方に向けて角度が付けられていて、――なんだか奇妙な感じがしました。

娘が通ったときは 36℃と告げました。美樹が通ったときは 36.7℃と告げました。私が通りかかったときも 36.7℃と告げました。でも、お腹に対して斜めに当てていたから、これは正確ではないだろうと思い、私は、顔を近づけて、お腹にぴったり当ててみました。すると、37℃と告げられました。――あれは本当にやるべきではありませんでした。

というのも、訪問者カードに体温を記入しなければならなかったからです。美樹が私の体温を尋ねてきたとき、もし「37°」と答えたら高すぎると思われて、受付の人に父に会わせてもらえなくなるかもしれないと私は考えました。今思えば、機械が「37℃」と告げたとき、「正常」とも言っていたのだから、おそらく大丈夫だったのですが。

私は、イエスなら決してしなかったようなことをしてしまいました――私は嘘をついて、「36.7」と答えました。ただ神を信頼し、従うことができませんでした。その後、強い罪悪感に苛まれました。後悔し、悔い改めました。これこそが、霊的であることと肉に属することとの違いです：

「霊的」であること――神の御性質と御心を示すこと。

「肉に属する」こと――神への信仰を持たず、この世的な性質や欲望に駆られること。

パウロが「自分が望むことを行わず、かえって憎んでいることをしている」と言ったのは、まさにこのことを指していたのです。

(2)奴隷の生活

**16節-19節**です。「[16] **もし、望まないことをしているとすれば、律法を善いものとして認めているわけです。[17] ですから、それを行っているのは、もはや私ではなく、私の中に住んでいる罪なのです。[18] 私は、自分の内には、つまり私の肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はあっても、実際には行わないからです。[19] 私は自分の望む善は行わず、望まない悪を行っています。**」

パウロは、「私の中に、すなわち私の肉の中に、罪が住んでいる」と言っています。彼は、「私は自分の望む善は行わず、望まない悪を行っています」と語っています。
彼は神の御言葉に従いたいと思っているが、それができません。結局、望まない悪を行ってしまいます。

これは、ビーバーとサソリの話を思い出させます。その話では、サソリがビーバーに、自分の背中に乗せて川を渡してほしいと頼みました。ビーバーは「いやだよ。君に刺されたら、僕は溺れてしまう」と言いました。するとサソリは「なぜ？　それなら私も溺れてしまうじゃないか。論理的に考えてよ」と言いました。
ビーバーは「その通りだ。じゃ乗って行きなよ」と言いました。川を半分ほど渡ったところで、突然サソリはビーバーに致命的な刺し傷を与えました。二人が沈みかけているとき、ビーバーは「なぜそんなことをしたんだ？　それは論理的じゃないって言ったじゃないか」と尋ねました。サソリはため息をついて「それは論理じゃない。これが本性なんだ」と答えました。

パウロは「それは論理の問題ではなくて、私たちの本性なのです。私たちは、望まない悪さえもやってしまうのです。」たとえ敬虔な心を持っていたとしても、私たちは怒りや噂話、嘘、不道徳な考え、あるいはその他の罪に屈してしまうものなのです。

何年も前、子供たちがまだ小さかった頃、家族を休暇で熱海へつれて行きました。旅行中、刺身をたくさん楽しみました。帰る前の最後に外食に、昼食には生ではなく焼き魚を食べようと思っていました。でも、みんなにもそれぞれの好きなものを食べさせてあげたかったのです。
聞いてみると、ミキは「イカの焼き物」が食べたいと言いました。娘は「マグロの刺身」と言いました。息子は「ラーメン」と言いました。そこで、この４品すべてが食べられるお店を探してみることにしました。正午ごろに出発し、30 分ほど歩いて埠頭まで行きましたが、そこでは見つかりませんでした。

ショッピングアーケードまで、さらに 30～40 分ほど歩きました。魚介類を扱う店も、ラーメン屋もたくさんありましたが、その４つすべてを揃えている店はどこにもありませんでした。私たちはひたすら歩き続けました。ようやく、旧駅舎の２階に、その４つすべてが陳列されている店を見つけました。その時点で、すでに午後２時半になっていました。

お店に入り、みんなが好きなものを注文しました。ところが、私が「焼き魚」を注文すると、ウェイトレスが「調理に 20 分ほどかかります」と言いました。私に別のものを注文してほしかったようです。でも、あれだけ歩いてきたのだから、私は焼き魚を諦めるつもりはありませんでした。私は「いいですよ。待ちます」と言いました。
すると彼女は、「実は、ショーケースにその魚は置いていないんです。サンマしか焼けません」と言いました。サンマも美味しいです。でも、それは熱海の魚ではありません。サンマは東京では 100 円ほどで買えるようなものでした。それで別のものを注文しました。
私以外の全員、ウェイトレスまで希望がかなったのにと腹が立ちました。食事の間、私は口をききませんでした。 帰り道、家族が私に話しかけようとしたが、私は応じようとしませんでした。家に帰ったあとも、まだ気分が晴れませんでした。

しかし、それ以上に、自分の子供じみた態度に私は心を痛めていました。ベッドに顔をうずめ、「なぜこんなことをしているのだろう？自分は牧師なのに。」と自問しました。そして、心から悔い改め、許しを請いました。

私は愛情深い夫であり父親でありたい、みんなが最後の食事を楽しめるようにしたいと思っていました。しかし、自分の思い通りにいかないと、私はみんなの楽しい食事を台無しにしてしまいました。
パウロはこう言いました。「自分の望む善は行わず、望まない悪を行ってしまうのです。」私たちは神を敬う心を持っていても、怒りや噂話、嘘、不道徳などに負けてしまうことがあります。

(3)異なる法則

**20節-23節**です。「[20] **自分が望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはや私ではなく、私の中に住んでいる罪なのです。[21] それで、善をなそうと思う自分に、いつも悪が存在するという法則に気付きます。[22] 内なる人としては神の律法を喜んでいますが、[23] 私の五体には異なる法則があって、心の法則と戦い、私を、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのです。**」

彼は「内なる人としては神の律法を喜んでいます」と言いました。彼は神の律法に従いたいと思っていました。それはまるで私のようなものです――私は嘘をつきたくはなかったし、愛に満ちた夫であり父親でありたかった――つまり、神に従いたいと思っていました。

「しかしながら私の五体には異なる法則があって、心の法則と戦」っています。

パウロは、異なる法則を発見したと言いました。自然の法則が一定の規則に従って作用するように――昼の後に必ず夜が訪れ、春、夏、秋、冬が常に同じ順序で巡ってくるように――彼はある法則を発見し、こう言いました。

**21節 「善をなそうと思う自分に、いつも悪が存在するという法則に気付きます。」**

彼の体の中に働くこの異なる法則が、彼の心の律法――すなわち神の律法――と戦いを繰り広げています。

この「異なる法則」が「私を罪の法則のとりこにしている」と述べています。

この用語は「槍」という言葉に由来しています。これは、二人の男が戦った後、勝者が敗者に槍を突きつけて、「私の言うことを何でもやれ」という様子を喩えたものです。敗者には従うしか選択肢がありません。

パウロによると、私たちが神の御言葉に従おうとするとき、まるで槍が私たちに向けられているかのようで、私たちは罪を犯すしかないのです――怒ったり、陰口を言ったり、嘘をついたり、不道徳なことをしたり――これ以外に選択肢がないのです。私のように病院で嘘をついたり、家族に対して怒りをぶつけたりするのと同じようなものです。

**24節**です。「[24] **私はなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、誰が私を救ってくれるでしょうか。**」

「私はなんと惨めな人間なのでしょう。」――なんと惨めなことか！　これがパウロ自身の自分に対して抱いた思いであり、私が自分自身に対して抱くべき思いであり、そして願わくは、みなさんも自分自身に対して抱くべき思いです。

なぜなら、イエスの言葉「**心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである**」(**マタイ5:3**)はこのことを意味しているからです。もし私たちが自分自身についてこのようにみじめで、どうしようもないと感じるなら、その時こそ、イエスにあって神の助けを受ける準備が整ったということなのです。では、どうすればよいのでしょうか？

**25節**で、このように言っています。「[25] **私たちの主イエス・キリストを通して神に感謝します。このように、私自身は、心では神の律法に仕えていますが、肉では罪の法則に仕えているのです。**」

私たちが
自分たちには、神の律法や神の命令に従う能力がまったくないと気づいたとき
イエスが私たちのための罰を十字架上で代わりに受けて下さったことを受け入れるとき
私たちの内にある罪深い性質を克服し、神の律法と御言葉に倣うことができるよう助けてくださる神の御霊の助けに希望を置くとき
その時、私たちは変わることができます。まだ行っていないなら、今日やってみましょう。

クリスチャンとして、私たちの心は新しくされています。しかし、天で新しい体を受け取るまでは、依然として私たちは罪深い体を持ち続けることになります。では、それまでは私たちは変わらないということでしょうか？　そうではありません。しかし、確かに
嘘をついたり、怒りを爆発させたり、不品行にふけることで、私たちが変化することはできません。
私たちは、自分の罪を謙虚に認め、それを神に告白し、神の助けを受けることによって成長します。これこそが、クリスチャンとノンクリスチャン、あるいは成熟した者と未熟な者を分けるものなのです。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg4426jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 101
教会員になるためのクラス
11 月 7 日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 402
キリストの伝え方
11 月 15 日(日)1:00pm – 4:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

**全クラスの申し込み：**
https://t-b-c.us/classes

急募！

## 奉仕者募集中！

### 1.日本語訳レイアウト&印刷

**（女性 2 名募集）**

**英語のスキルは必要ありません。**

**・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。**
**今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。**
**ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。**

***スキル：MS Word の操作ができる方。**
***TBC の教会員であることが必須です。**

### 2.礼拝メッセージ翻訳

**・1 ケ月半～2ケ月に 1 度、自宅でできます。**
**スケジュールは都合に合わせて選べます。**
**英語と日本語が出来る方**

**連絡先：hiromik@tokyobaptist.org**